

【I】 中国労災病院消化器内科 後期研修プログラム (2010)

【研修期間】 3年

【研修場所】：内科外来 内科病棟(7階東、6階東、4階西病棟) 内視鏡室 放射線科 検査科

I. 一般目標

消化器系を中心とする内科系疾患において

- A. 救急疾患や救急の処置に対応できる基本的診療能力を習得する。
- B. 慢性疾患の診断および治療方針を構築するに必要な基本的診断能力を習得する。
- C. 基本的検査手技の意義を理解した上で、安全で確実な知識と手技を習得する。
- D. 医療記録に必要な事項を正確に記載し、さらに診療を進めていくことを習得する。

II. 行動目標

A. 急性疾患

1. 吐血患者の緊急処置を実施し、かつ、全身状態の改善および原因疾患の把握ができる。
2. 急性腹症について診断、適切な検査および処置ができる。
3. 急性腹症について手術など治療方針を決定できる。
4. 閉塞性黄疸に対して、緊急処置および基礎疾患の診断、検査計画と治療方針を確立できる。

B. 慢性疾患

- 1 消化管、肝胆膵の腫瘍性疾患に対する診断と治療方針をたて、実施できる。
- 2 病態の把握と基礎疾患の関係を理解し、原因と結果の因果関係を説明できる。
- 3 肺機能、心機能、腎機能、耐糖能など基本的な状態を把握し、評価ができる。
- 4 終末期医療における疼痛管理、精神状態などを理解する。

C. 基本手技

- 1 社会人としての挨拶と身だしなみをする。
- 2 甲状腺、頸部リンパ節、腋窩リンパ節の触診が正しくできる。
- 3 肝臓、脾臓、腎臓の触診ができる。
- 4 末梢静脈の確保ができる。
- 5 動脈血の採取と分析結果の説明ができる。
- 6 超音波で肝、胆嚢、総胆管、腎臓、脾臓、膵頭部、門脈、脾静脈を正しく描出できる。
- 7 PTCD, RFA 等, 超音波装置を用いた処置ができる。
- 8 上下部消化管検査ができる。
- 9 ERCP, EIS ができる。
- 10 上下部消化管造影検査の撮影と読影ができる。
- 11 CT 画像において腹部の基本的な解剖が説明でき、病的な所見を指摘できる。
- 12 胃管、イレウス管の挿入、中心静脈栄養のラインが確保できる。
- 13 消毒、清潔操作、皮膚縫合、糸結びが正しくできる。

D. 医療記録

- 1 主訴、現病歴、家族歴、既往歴、理学所見をとり、正確に記載できる。

- 2 レントゲン所見や検査所見の理解と記載が正しくできる。
- 3 処方箋の記載ができる。
- 4 検査や処置、手術に対するインフォームドコンセントを記載することができる。
- 5 日々の所見や診療内容が適切に記載できる。
- 6 入院時治療計画書や退院時療養指導書を書くことができる。
- 7 退院時総括を適切に書くことができる。
- 8 紹介医に対する返事や依頼状を適切に書くことができる。

【研修実務】

- 1 月曜日から金曜日まで、外来、病棟、および検査室での研修をおこなう。
- 2 後期研修医である前にまず一人の社会人としての自覚を持ち、挨拶や身だしなみなどを含めた患者に対する接遇に留意すること。
- 3 消化器科での研修の原則は自己学習であり、押しつけることはしないので、積極的に学習し研修を行う。したがって、3年の消化器科研修では自分から欲する者にはできる限りの機会を与えるが、受身の者は対してはそれなりなことしか得られないと認識すること。

担当患者について

- ① 担当患者の診断、治療のため、検査予定をたて、インフォームドコンセントを行い、説明内容の記録、退院時総括などを行う。特にカルテ書きは医師として避けることのできない仕事なので病名や処方内容などすべての書類を記載する。
- ② 担当患者が受けている加療内容や画像所見については、十分理解すること。例えば投薬内容に関しては、必ず薬理作用から副作用まで理解した上で処方する。
- ③ 毎週火曜日新患紹介、水曜日の肝胆膵カンファレンス、木曜日の消化管カンファレンスで担当患者を中心にプレゼンテーションを行う。
- ④ 患者退院時の2日前に退院時総括を作製する。

【II】 指導体制

指導責任者： 大屋 敏秀 (第2回広島卒後臨床研修ネットワーク指導医講習会修了)
指導医 : 守屋 尚 (第5回全国労災病院臨床研修指導医講習会修了)
指導医 : 久賀 祥男
指導医 : 岡信 秀治
指導医 : 田中 友隆

【III】 在籍レジデント (後期研修医) 合計 3 名

5 年次 1 名、4 年次 1 名、3 年次 1 名

【IV】 研修内容

午前：外来 2 回/週、腹部エコー1 回/週、上部内視鏡検査 1 回/週
午後：下部消化管検査(EMR/ESD)、ERCP 関連検査、RFA
その他：消化管出血の止血、PTCD, EIS など適宜行います。
また、 半日/週の頻度で、救急患者の care (救急部と共同)

【V】 処遇 勤務時間 8：15～17：15 (昼休み 1 時間含む)

当直回数 (土、日日直を含む) 2～3 回/月

休日 週休 2 日、夏季休暇 5 日、創立記念 1 日

身分 研修嘱託医

給与 3 年次 410,000 円、4 年次 530,000 円、5 年次 640,000 円

日当直手当て、時間外勤務手当て 有り

宿舎 1DK～3LDK の宿舎あり。(5,000 円～15,000 円/月 負担必要)

学会などの支援 学会支援 (旅費) 56,000 円/年

個人研究費 156,000 円/年

【VI】 関連学会の施設認定

日本内科学会、

日本消化器病学会

日本消化器内視鏡学会

日本肝臓学会

【VII】 診療実績

病院病床数 410 ベット、内科 110 ベット、消化器内科 50～60 ベット

(科別の厳密なベット数はありません。)

年間内視鏡検査 上部 4000 件 (ESD 70 症例 止血 50 症例)

下部 2500 件 (EMR 250 症例 止血 90 症例)

ERCP 150 (結石除去 120 症例、ドレナージ 80 症例), ESWL 15～20 件

EIS 30 件

RFA 110 件 肝生検 50 件 TAE/TAI 180 件

【VIII】 学術関連実績

5 年間（2004～2008 年度）の業績

	論文	学会発表
2004	5	23
2005	7	46
2006	9	42
2007	8	38
2008	6	44

【IX】 施設の特徴

当院は、呉市東部に位置し、呉市内、竹原市、東広島市、県島嶼部が診療エリアで、症例数は多い病院です。当科の外来診療数は、120～130 人/日であり、一日入院患者数は、55～60 人ですが、平均在院日数は、12～13 日であり、救急外来にも対応しているため、かなり忙しい病院と思います。

加えて、臨床研究的な側面も重視しており、3 年間のレジデント期間で、10 回を越える学会発表の機会があります。

全病床数 410 床に対して、初期研修医を含めると 100 名を越える医師数であり、先進的あるいは高度な医療についても経験できると考えています。

スキルも含め、医学に対して、積極的に接しようとしている方、チャレンジしてください。

